

第 22 回 茅ヶ崎海岸侵食対策協議会

◇ 開催概要

日時:令和 7 年 3 月 15 日 16:00～18:30

場所:藤沢土木事務所汐見台庁舎 1 階会議室

出席者:委員 17 名、事務局 14 名、傍聴者 12 名

議事概要

● 開会

- ・規約改定について報告した。(資料1)

● 第 21 回協議会の概要(資料2)

- ・第 21 回協議会の内容を確認した。

● 茅ヶ崎海岸の養浜事業の評価(資料3)

- ・2006 年 1 月～2024 年 3 月までに養浜を実施

柳島地区:11.0 万 m³ 中海岸地区:52.3 万 m³ 菱沼地区:15.9 万 m³

(1)柳島地区

- ・2016 年以降、波向変動に起因する汀線変動が起きているが、海浜面積は大きく変わらない。一方、水深4m付近では侵食傾向にある。

(2)中海岸地区

- ・2024 年 10 月には浜幅 $B' = 51.8\text{m}$ と計画浜幅を $B' = 50\text{m}$ を満足しており、防護機能が確保された。

(3)菱沼海岸地区

- ・2022～2024 年の合計で 6.3 万 m³の砂が前浜に投入されたが、高波浪が来襲していないことから、海域への砂の供給量は明確でないが、一部で汀線前進が見られる。
- ・令和6年度の養浜結果を注視しつつ、引き続き養浜を継続する必要がある。

● 茅ヶ崎海岸の中海岸地区と菱沼海岸地区の海浜状況調査(資料4)

- ・ 中海岸地区(維持養浜)と菱沼海岸地区(定点での連続養浜(サンドエンジン養浜))において、現地調査を行い、養浜後の海浜状況とその結果について説明があった。

● 菱沼海岸地区におけるサンドエンジン養浜の効果検討(資料5)

- ・ 菱沼海岸地区における定点での連続養浜(サンドエンジン養浜)の効果について、養浜材の粒径を変化させた場合を対象に予測計算を行い、再現計算では、やや過小ではあるものの、直近 1 年間でのサンドエンジン養浜による汀線前進が再現できた。
- ・ 予測結果から、相模川河口砂州の堆積土砂は、現在、菱沼海岸地区で使用されている養浜材(飛砂)よりも粒径が粗いことから、養浜材の歩留まりが高く、養浜による汀線前進効果が大きいことがわかった。

- ・ 養浜量を 3.0 万 m³/年とした場合、汀線前進が一層顕著になり、自転車道が海側に張り出している4号水路東側を除いた全域で 21 年後には計画浜幅を満足することが可能となることが分かった。

- 茅ヶ崎養浜環境影響調査結果報告(資料6)

- ・ 水質:透明度、SS は R5 調査よりも全体的に良い傾向であった。
- ・ 底質:粒度組成は、全体的に細砂主体。St.8 と St.12 は粘土・シルトの割合が高い。
- ・ COD、全硫化物は、水産用水基準以下である。
- ・ 底生生物:総個体数、種数は R5 調査よりやや少ない。
- ・ 合成指標による底質評価:正常な底質と判断される。
- ・ 海底景観:柳島地区、菱沼海岸地区(白浜町)、中海岸地区、いずれも大きな障害物は認められなかった。

- 令和7年度養浜工事について(資料7)

- ・ 令和7年度養浜予定
柳島地区:5,000m³、中海岸地区:10,000m³、菱沼地区:26,000m³

- 閉会

☆ 委員意見概要

主な委員意見を整理した。（●意見、⇒意見に対する回答など）

- 竹ず柵の維持の件ですけれども、いつまた風が吹いて砂がたまるかわからないので、自転車道の飛砂をすぐにどけずに、結構ためっ放しになっていることが多くて、それが竹ず柵を早く傷める要因になっているのではと思っています。【岡崎委員】
 - ⇒ 自転車道の堆砂除去について、今年度から、藤沢市域、茅ヶ崎市域に分けて事業を発注し、これまでは自転車道への飛砂を竹ず柵の外側に除去するまでであったが、さらに除去した砂を汀線際に押し出す工事とあわせて行っている。管理者間で連携してなるべく自転車道に飛砂がたまらないような工夫をしている。来年度も連携しながら取り組んでいく。【事務局】
 - ⇒ 養浜するだけでなく、自転車道が飛砂で通行止めに近い状態になることを避けている。【宇多副会長】
- 定点での連続養浜（サンドエンジン養浜）は、自然浜みたいになっていて、本当に違和感がなくて、すごいなと思いました。これはやってほしいです。【伏見委員】
 - ⇒ 菱沼海岸地区での定点での連続養浜（サンドエンジン養浜）は、成果を見ながら進めていかなければならない。【宇多副会長】
- 茅ヶ崎中海岸地区の盛土のところは、やっぱり工事現場のようなので、あそこもサンドエンジン養浜ですぐに自然浜のようになるようにしてもらえないでしょうか。【伏見委員】
 - ⇒ 既に盛土で養浜しているので、それを工夫するのはなかなか難しい。自然海浜の状態に近づけるように盛土養浜を少しずつ均しながら、施工後の状況を注視していく。ただ、時間をいただかないと、自然浜のような姿にはすぐにはならない。【宇多副会長】
- 茅ヶ崎漁港西浜から、毎年 15,000 m³、去年は 20,000 m³を超える養浜砂を取っており、元の地盤高よりも砂浜が低くなっている、この地域は侵食の心配はないということですか。【三觜委員】
 - ⇒ 砂を取り過ぎたら人為的侵食となる。そうならないように過剰にたまった砂を養浜利用しているが、今後も茅ヶ崎漁港西浜から砂利用を継続できるか課題です。もともと相模川からの砂の供給が激減しているが要因であるが、年によって非常に西風が強いときには過剰に砂がたまる部分もあるので、それを有効利用している。全体として、どこに過剰に堆砂しているかをモニタリングしている。【宇多副会長】
- 昔は駐車場になっていた浜降祭の神輿が集まる場所が元の地盤高で、それがずっと西側に続いている状況だったが、現状そこから西側は浜崖になってしまっています。夏と秋の西風で砂が復旧していくといいが、随時モニタリングをしているということですが、ここ 2 ～ 3 年の間にかかなり見た目でわかるような深さになってきているので心配している。【三觜委員】
 - ⇒ ここ 2 年間、特に去年は西風が吹いておらず、ほぼ掘った状態が元に戻らなかったが、過剰

に掘らないように、風の吹き回しなど十分注意しながら、人為的侵食となる前に茅ヶ崎漁港西浜からの砂の再利用を止める。【宇多副会長】

- 茅ヶ崎漁港西浜の砂がなくなったというよりも、防波堤の西側の海中にすごく堆積しています。海の中にはまだたくさんあると思うので再利用できないでしょうか。【真間委員】
⇒ たまっているというのは認識しており、堆砂する場所は波の状態と風の状態に依存する。水の中を取りたいところだけれども、波の作用や風が吹くと茅ヶ崎漁港西浜の奥側まで砂が行くので、汀線際を掘りながら状況を見ている。【宇多副会長】
- ハマグリを茅ヶ崎でも増やそうとしていて、白浜町あたりに稚貝をまいているが、細かい砂がないといけない。生物が住みやすい海の中をつくっていただきたい。【真間委員】
⇒ ハマグリが湧いてくるような漁場になったほうが良いが、すぐにできないけれども、水産などでいろいろ使いようにするといった視点が大事である。【宇多副会長】
- 海で遊ぶ人に対してより良い環境にしてもらいたい。【鈴木委員】

以上